広域支部総会報告

広域支部支部長　東江　正史

令和 5 年度第一薬科大学広域支部総会は令和 5 年 7 月 2 日(日曜日)に福岡市内のホテルクリオコートにて開催されました。出席者数は保護者、学生を併せて 9 人の参加でした。

最初に支部長から「2 月の国家試験の新卒者合格率が 94%あり、学生はもとより諸先生方や保護者、後援会のバックアップがあったからこそで、今年度もそれ以上を期待します。」との挨拶で始まりました。

次年度の代議員もスムーズに決まり、次年度代議員から「第一薬科大卒の御自身の体験等も踏まえて国家資格を取得すれば道は開ける」と学生へのエール、及び自己紹介がありました。

時間的余裕があったため、各自己紹介をしてもらいました。第一薬科大学卒業者が身内や周りにいる方が多く見受けられました。

続きまして、小松副学長の学力向上対策についての講演がはじまり「R2.3.4 年度を比較し、6 年生の進級率が 50%と上がっている。低学年時から基礎学力を定着させ進級率を高めていく、6 年生の卒業率を高めていくという事を基本方針としている。」との事で、各学年時における学力向上対策の詳細がありました。

・１年生　入学時の成績と入学後の成績は相関しないので、1 年時に継続的な学習習慣が定着すると 2 年時以降の成績も良くなる。又、モチベーションを保ってもらう事として、特別講師を招待したり、講義内容を変え興味を持ってもらう事やスクーリングを始めている。

・２年生　基礎学力試験の内容を変えたにもかかわらず点数は UP している、良い傾向

・３年生　基礎学力試験はほぼ横ばいである。２年３年生はどうしてもモチベーションが保てないので、補習講義で学習意欲を高めていく。

・４年生　CBT、OSCE がある、CBT は約 80%、OSCE は毎年 100%です。CBT 体験受検の試験結果の割合がよければ 2 年後の国家試験の割合もよいという相関があるので、CBT をどれだけ高めていくかに力を入れている。

・５年生　国家試験過去問を解く。模試をやる。60%以上の正解率の問題をクリアすれば、国家試験に合格できる。国試予備校のオンライン授業を視聴できるようにしている。

・６年生　卒業者数も毎年増えている。成果確認試験を複数回やっている。夏季合宿で勉強すると成績中位者の延びがよいので、早い段階で対策を始めると国家試験合格率も UP する傾向にある。

ホームカミングディを実施し卒業生との関係を深めていくという取り組みも実施している。

学校側もいろいろ模索しながら、進級率、卒業率、国試合格率を UP させるべく努力されている事がわかりました。後援会も後押しをして行きたいものです。

幾つかの質問が来ていましたので Q&A で掲載します。

Q1　卒業試験がかなり厳しいと聞いています。合格できなかったら高卒扱いですか？4 年生の薬学科を卒業したことになりますか？進級試験も厳しいらしいので不安です。

A1　国家試験に合格するのと同様に卒業試験も決して簡単ではありません。
しかし卒業できれば薬剤師国家試験は決して難しすぎるものではありません。
順調に卒業してストレートで国家試験に合格するには、大学での個人の努力と学習環境が重要です。既卒者の合格率は新卒者のそれと比べると低い傾向です。
そこで、卒試や国試に合格するための対策は

①　早い時期から国試対策の勉強をスタートする。

②　徹底的に過去問研究を行う。

③　勉強の仕方は、知識はただ丸暗記するのではなく理由も踏まえて覚える。

模擬試験や定期試験で十分な点数を獲得できないなら、今すぐに普段の学習環境や勉強方法を見直し、不安要素をできるだけ取り除いて卒業試験・国家試験合格をつかみ取りましょう。

Q2　既卒者の国試合格率が低くなるとのことですが、新卒出来なかった年の 9 月卒業に限れば国試合格率はどれくらいになりますか。

A2　３０％程度です。

その他、会場にて 2,3 質問がありましたが割愛します。

最後に、後援会副会長の富永様より、「薬剤師は個性や人との繋がりは大切であり、卒業生を多く排出し、その繋がりを大切にしていくと言う取り組みに後援会もしっかりサポートしていきます。」とのお言葉を頂戴いたしました。

その後、昼食を取りながら懇親会がありました。その場でも小松副学長を中心に質問や相談などもあり、会を惜しみつつお開きとなりました。又、来年もよろしくお願い致します。